

第32回サル疾病ワークショップ

# 一般発表ガイド

## 問合せ・発表申し込み・要旨提出

サル類の疾病と病理のための研究会  
事務局 板垣 伊織  
spdp.itagaki@gmail.com

## 募集内容

- ・ **一般口演**  
サル類に関する、もしくはサル類を用いた研究についての口頭発表
- ・ **CPC (臨床病理カンファレンス)**  
サル類の症例検討。臨床データと病理データを提示してのディスカッション
- ・ **ポスター**  
サル類に関する、もしくはサル類を用いた研究についてのポスター発表

## 資料提出期限

- ・ 要旨提出 2024年5月31日 金曜日

## 発表要旨

- ・ 記載事項: 演題名, 発表者および共同研究者氏名, 発表者および共同研究者所属, 発表者連絡先電子メールアドレス, 本文
- ・ 形式・書式について
  - 添付見本をご参照下さい。
  - 英数字は「半角」, カタカナは「全角」をご使用下さい。
  - 発表者氏名には「○」を付して下さい。
  - 本文は「背景」「材料と方法」「結果」「考察」「参考文献」など, 適切な単元に分けて簡潔に記述下さい。
  - フォント, フォントサイズ, 文字間隔, 行間隔, 一行字数など書式の詳細は要旨集作成時に事務局にて標準指定します。
  - 提出原稿に含まれているローマ数字や丸数字などの機種依存文字は, 内容を損ねないことを条件に事務局にて置換いたします。
- ・ 字数制限: 上記の書式でA4用紙2ページ以内。
- ・ ファイル形式: 次のいずれかのファイル形式で提出下さい。  
PDF形式, プレインテキスト形式, リッチテキスト形式, MS-Word形式, Apple Pages形式, ODFドキュメント形式

## 発表方法

発表場所 (現地会場・オンライン) についてお知らせ下さい。現地会場にてご自身のデバイスを持ち込んでの発表をご希望の場合は, デバイスの機種名についても合わせてお知らせ下さい。

## ポスター発表

### 1. 現地会場参加者

印刷したポスター (P-poster) を会場に貼付し、その電子ファイル (E-poster) をサーバ上で参加者全員に提示する。

### 2. オンライン参加者

E-posterを参加者全員に提示する。

### ポスター展示期間

- ・ E-poster                   2024年7月5日 金曜日～7日 日曜日
- ・ P-poster                   ワークショップ当日

### 質疑応答

- ・ E-poster                   参加者用メーリングリスト上で行う。  
展示期間後も継続する場合は発表者と質問者との間で直接行う。
- ・ P-poster                   現地会場にて随時。

## ポスター作成概要

### 1. P-poster

- ・ サイズ                    A0版縦型
- ・ ポスター番号            割り当てられたポスター番号をタイトルの前に提示する。
- ・ 提出方法                 現地に持参

### 2. E-poster

- ・ ファイル形式            PDF
- ・ サイズ                    A版縦 (横1 : 縦√2)
- ・ ファイル容量            30MB以内
- ・ ポスター番号            割り当てられたポスター番号をタイトルの前に提示する。
- ・ 提出方法

大容量ファイル転送サービスもしくはクラウドのファイル共有機能を用い、下記まで提出する。

提出先                    [spdp.itagaki@gmail.com](mailto:spdp.itagaki@gmail.com)

# コモンマーモセットの線維性骨異栄養症

○佐々木 瑛美<sup>1</sup>, 秋田 優子<sup>2</sup>, 宇根 有美<sup>1</sup>

<sup>1</sup>麻布大学 獣医病理学研究室, <sup>2</sup>長崎バイオパーク

E-mail: xxxxx.xxxxx@azabu-vet.ac.jp

【はじめに】全身線維性骨異栄養症は骨の代謝疾患の一つである。全身性の破骨細胞性の骨吸収と骨吸収領域における修復性の線維性結合組織増殖を特徴とする。今回、コモンマーモセットにおいて線維性骨異栄養症が認められたので報告する。

【動物と臨床経過】コモンマーモセット (*Callithrix jacchus*), 雌, 飼育歴2年 (一般家庭より提供され年齢不詳)。2014年冬頃から後肢が動かなくなった。2015年7月19日嗜眠傾向がみられたが, 食欲に変化はなかった。翌日嘔吐し, 17時頃に斃死を確認。

【肉眼所見】骨病変は長骨および扁平骨に関わらず全身性にみられた。軸骨格に高度の変化があり, 剣状突起が外方に突出し, 胸骨が内側に弧を描くように陥凹していた。鎖骨はび漫性に太さを増していた (幅2~3mm)。左右全ての肋骨骨部は幅が不整で全体的に肥厚し, 部分的に高度で結節状を呈していた。胸骨骨髓は膠様髓で一部赤色髓であった。四肢骨は骨幹部が隆起しており, 滑車孔は屈曲, 肥厚していた。頭蓋骨の縫合は不整で骨化は不十分で, 表面に微細な赤色斑紋が存在していた。

【組織所見】骨組織の検索には上腕骨および胸骨を用いた。いずれも同様の所見が得られた。線維組織により骨組織は置換され, 破骨細胞の活性化と破骨細胞によるハウシップの吸収窩がみられた。また外骨膜上の骨新生, 類骨の形成, 骨髓腔の拡大, ハバース管の拡大, 皮質骨の線維性肥厚, 骨細胞密度の増加がみられた。また同心円状の骨化があり, 層板構造が不明瞭になっていた。AZAN染色で膠原線維密度の増加を確認した。その他, 細菌性間質性腎炎, 細菌性心筋炎, 肝ヘモジデロシス (高度), 髓外造血, 肺水腫, 軽度の慢性胃炎が認められた。

【考察】以上の所見から本症例を線維性骨異栄養症と診断した。コモンマーモセットにおける骨疾患の報告は多く, 特徴的なビタミンD3代謝がその一因と考えられている。飼育下のサル類では不適切な飼料や室内飼育による紫外線不足などに起因するビタミンD不足に陥る結果, 栄養性二次性上皮小体機能亢進症が発現し, 全身の骨格に線維性骨異栄養症が生じるとされる。本症例における骨代謝異常の原因として, 低カルシウム血症など代謝異常の可能性が考えられたが, 本症例では生前に血液検査を実施していないこと, 上皮小体の検索を行っていないこと, 同居の他個体に病変が認められていないことから確定には至らなかった。また死因に関しては, 糸球体内に細菌が確認されたことより, 血行性に細菌が侵入し, 敗血症に陥り死亡したと考えた。

## 【参考文献】

サル類の疾病カラーアトラス

Olson et al. Vet Pathol. 2015(5): 883-893.